

田・和田編, 分担執筆) 1015頁。化学同人, 東京。

- 2) 鈴木 晃 (1985): 房総半島の自然—生物相にみられる孤島性とその保全—。遺伝, 39(6): 46-51.
- 3) 鈴木 晃 (訳) (1985): チンパンジーの社会生態 (キグリエリ著)。サイエンス, 15(8).
- 4) 小山直樹 (1985): 霊長類のコミュニケーションと社会行動。霊長類学入門 (江原・大沢・河合・近藤編), pp 220-242. 岩波書店, 東京。

論 文

- 1) 鈴木 晃 (1985): オランウータンの社会構造。科学, 55(5): 308-314。
- 2) 鈴木 晃 (1985): オランウータンとチンパンジーの社会構造。サイエンス, 15(7): 22-31.
- 3) Koyama N. (1985): Playmate relationships among individuals of Japanese monkey troop in Arashiyama. Primates, 26 (4): 390-406.

報告・その他

- 1) 鈴木 晃 (1985): 東カリマンタンの低地熱帯林の山火事。科学, 55(5): p314.
- 2) 小山直樹 (1984): カニクイザルの社会行動。モンキー, No 200: 6-15.
- 3) Koyama, N. (1985): Socio-ecological study of the crab-eating monkeys at Gunung Meru, West Sumatra. Kyoto University Overseas Research Report of Studies on Asian Non-Human Primates, 4: 105-126.

学会発表

- 1) 鈴木 晃 (1985): アフリカの森林帯・周縁地域における蝶類の分布地理学上の一知見。第22回日本アフリカ学会学術大会。

変異研究部門

野澤 謙・庄武孝義・和田一雄・峰澤 満

研究概要

1) ニホンザルの集団遺伝学的研究

野澤 謙・庄武孝義

ニホンザルの血液蛋白の構造を支配する遺伝子の変異を電気泳動法によって検索し, 群内, 群間の変異性を定量化する。現在までにニホンザル44群, 総個体数約2,600頭の血液試料について, 35種の蛋白の構造を支配する計38遺伝子座の検索を行ってきた。このデータをもとにして, 統計的検討を加え, 繁殖単位間の毎代の移出入率, 遺伝的変異の散布範囲などについて定量的推定を行い, ニホンザルの繁殖構造を解明すべく作業を続行中である。

2) *Macaca* 属サルの系統的相互関係

野澤 謙・庄武孝義

ニホンザルを含む *Macaca* 属サル各種から採血を行い, 前項1) と同一の方法によって種内・種間の遺伝学的変異性を定量化し, それら種間の遺伝子構成上の差を遺伝距離で表現し, それに数量分類学的手法を適用して枝分かかれ図を描く。それにより種間の近縁関係, 分化時間の推定等を行う作業を目下続行中である。60年度には, シシオザルの遺伝的変異性と他種マカクへの遺伝距離を推定し公表した。

3) 家畜化現象と家畜系統史の研究

野澤 謙・庄武孝義

在来家畜とそれらの野生原種の遺伝学的野外調査によって, 家畜化現象そのものの集団遺伝学的解明と, 個々の家畜内で地域集団間の遺伝的分化の程度, 系統的相互関係の解明を行いつつある。60年度にスリランカと南インドの調査結果を公表した。

4) ヒヒ類の種分化に関する遺伝学的研究

庄武孝義・野澤 謙

60年度のガン特別研究による海外調査によりカメルーンにてマンドリル, ドリルの試料が得られたので, これまでの試料をまとめてヒヒ類6種間の遺伝距離を推定中である。

5) *Cercopithecus* 属サルの遺伝的分化に関する研究

庄武孝義・野澤 謙

上述の海外調査によりカメルーンにてグリベットモンキーとパタスモンキー, エチオピアにてグリベットモンキーの資料を収集したのでこれまで得られている資料と合わせて地域分化, 種分化を遺伝距離でもって定量しつつある。

6) ニホンザルの細胞遺伝学的研究

峰澤 満

ニホンザルの標準核型に基づきニホンザルの地域集団の染色体の変異性を検討している。

7) 新世界ザルの遺伝学的研究

峰澤 満

59年度ポリビアの調査の際得られた血液資料について染色体の変異を検索し、引き続き血液蛋白を支配する遺伝子の変異の検索を行っている。

8) キヌザル科のキメラ動物の遺伝学的研究

峰澤 満

キヌザルにみられる血液および生殖細胞のキメラの遺伝学的特性の解明を行いつつある。

9) 志賀C群の秋期の食物利用調査

和田一雄

継続中のseed trapによる食物の生産量調査を行った。

10) 中国黄山でのチベットモンキー調査

和田一雄

1985年10月6日～1986年3月8日の5ヶ月間、安徽省におけるチベットモンキー (*Macaca thibetana*) の分布調査、黄山の群れの泊まり場、遊動時の社会調査を行った。

11) ゼニガタアザラシの生態と保護に関するシンポジウム

和田一雄

シンポジウム組織委員長和田の下に1985年7月10-12日札幌で、イギリス、アメリカの研究者も参加して行われた。

論 文

- 1) Nozawa, K., Fukui, M. and Furukawa, T. (1985): Blood-protein polymorphism in the Japanese cats. *Jpn. J. Genetics*, 60: 425-439.
- 2) 庄武孝義, 天野 卓, 並河鷹夫, Cyril, H.W. (1986): スリランカ在来山羊集団の体型・外部形態および血液蛋白の遺伝子構成。在来家畜研究会報告. 11: 150-158.
- 3) 庄武孝義, 野澤 謙, Mewa Singh, Cyril H.W. (1986): スリランカとインド南部における飼育のアジアゾウの遺伝的変異性と遺伝的分化について。在来家畜研究会報告 11: 207-213.
- 4) Ishida, T., Yamamoto, K., Ishimoto, G.,

Shotake, T., Takenaka, O., Nozawa, K., Hayami, M. and Hinuma, Y. (1985): A field study of infection with human T-cell leukemia virus among Asian primates. *Microbiol. Immunol.*, 29: 839-846.

- 5) Takenaka, O., Takenaka, A., Takahashi, K., Kawamoto, Y. and Nozawa, K. (1985): Hb Bali (*Macaca*) β 80 (EF4) Asn \rightarrow Lys: The first hemoglobin variant found in the crab-eating monkey (*Macaca fascicularis*) on Bali island, Indonesia. *Primates*, 26: 464-470.
- 6) Takenaka, O., Takenaka, A., Hayasaka, K., Kawamoto, Y., Shotake, T. and Nozawa, K. (1985): Hb Izu (*Macaca*) β 83 (EF7) Gly \rightarrow Cys: The major hemoglobin of the Japanese monkey (*Macaca fuscata*) in a troop at Shimokita, the northernmost limit of its habitat. *Primates*, 26: 471-478.
- 7) Minezawa, M., Harada, M., Jordan C., O. C. and Valdivia B., C. J. (1985): Cytogenetics of Bolivian Endemic Red Howler Monkeys (*Alouatta seniculus sara*): Accessory chromosomes and V-autosome translocation related numerical variations. *Kyoto University Overseas Research Reports of New World Monkeys*, 5: 7-16.
- 8) Iseki, M., Harada, M. and Minezawa, M. (1985): Helminth Parasites of Bolivian Monkeys. *Kyoto University Overseas Research Reports of New World Monkeys*, 5: 17-24.
- 9) Miyashita, N., Moriwaki, K., Minezawa, M., Yonekawa, H., Bonhomme, F., Migita, S., Yu, Z., Lu, D., Cho, W. S. and Thohari, M. (1985): Allelic Constitution of the Hemoglobin Beta Chain in Wild Population of the House Mouse, *Mus Musculus*. *Biochem. Genet.*, 23: 975-986.
- 10) Wada, K. (1984): Rhesus monkey distribution in the lower Himalayas and secondary forest succession. *J. Bombay*

Nat. Hist. Soc., 81 (2): 355-362.

- 11) Wada, K. and Matsuzawa, T. (1986):
A new approach to evaluating troop
deployment in wild Japanese monkeys.
Intern. J. Primat., 7: 1-16.

研究報告・その他

- 1) 野澤 謙, 庄武孝義 (1985): 中部山岳地帯南部のニホンカモシカの遺伝的変異, 特に木曾川兩岸集団間の遺伝的分化について。昭和59年度科学研究費補助金(総合研究A課題番号58362001)研究成果報告書: 295-303.

学会発表

- 1) 庄武孝義, Mewa Singh, 川本 芳, 早坂謙二, 野澤 謙 (1985): シシオザル (*Macaca silenus*) の遺伝的変異性。第39回日本人類学会(筑波)。
- 2) 庄武孝義, 天野 卓, 並河鷹夫, Cyril, H.W. (1986): スリランカ在来山羊集団の体型・外部形態および血液蛋白の遺伝子構成。第78回日本畜産学会(筑波)。
- 3) 庄武孝義, 野澤 謙, Mewa Singh, Cyril, H.W., Crusz, H. (1986): アジアゾウ2亜種間の遺伝的分化。第78回日本畜産学会(筑波)。
- 4) 和田一雄 (1985): 志賀高原におけるニホンザルの冬期における泊まり場でのグルーピングについて。乳動物学会・乳類研究グループ合同大会(札幌)。
- 5) 和田一雄, 羽山伸一, 中岡利泰, 宇野裕之 (1985): サケ定置網におけるアザラシ被害の実態—ノサップ岬を例に—。ゼニガタアザラシの生態と保護に関するシンポジウム(札幌)。
- 6) 羽山伸一, 宇野裕之, 和田一雄 (1985): 北海道根室半島におけるゼニガタアザラシ回遊群の年齢構成と回遊様式。ゼニガタアザラシの生態と保護に関するシンポジウム(札幌)。

生活史研究部門

河合雅雄・杉山幸丸・大沢秀行・森 明雄・丸橋珠樹¹⁾

研究概要

- 1) 西アフリカ熱帯多雨林および乾燥サバンナの狭鼻猿類の社会生態学的研究

河合雅雄・大沢秀行・森 明雄

西アフリカ・カメルーン国南部の熱帯多雨林においてマンドリルの採食生態, コミュニケーション, 社会構造の研究が継続中であり, さらに同所に生息する樹上性の7種の霊長類についても森林適応の観点から調査が行われている。今年度の調査では同所に生息するチンパンジーが餌付き始めた。これは, チンパンジーの研究では第3番目の亜種で, これまでにはあまり調査されておらず, 今後の研究の発展が期待できる。

同国北部の乾燥サバンナにおいてはパタスモンキーの調査を行っている。パタスモンキーは単雄群型の社会をもつサバンナに適応した種であり, その社会変動のメカニズムおよび草原適応に関する研究を進めている。さらに熱帯多雨林での研究との相互比較によって各種の異なる環境への適応様式が明らかにされつつある。

- 2) ニホンザルの個体群動態および採食生態学的研究

杉山幸丸・大沢秀行・森 明雄・丸橋珠樹

高崎山の餌付け個体群を対象に個体標識による継年追跡を続行中であり, 詳細な人口学的パラメーターを算出し生命表を完成しつつある。このような個体群の変動量の把握と同時に, 採食量の調査を林内追跡によって開始した。一方, 霊仙山では餌付け中と餌付け放棄後の個体群動態が細部に及んで比較検討され, 各社会階層との関連において追及されている。また屋久島永田地域では野生群において採食行動を通じた個体間関係と社会構造・個体群動態の究明が進められている。

幸島群においては, これまで行ってきた個体の体重変動の継続調査の結果を採食行動に関する資料と関連させながら分析を進めている。

- 3) 動物における子殺しの社会生態学的研究

杉山幸丸

ハヌマン・ランゲールで最初に確認された野生動物(哺乳類)社会における種内子殺しの近因と遠因, その相互関係を, 野外調査を交えながら理論的に考察している。

- 1) 非常勤講師